第25期 第20回大津市農業委員会総会議事録

1. 開催日時 令和7年1月10日（金）14時45分から17時00分

2. 開催場所 大津市役所新館7階特別会議室

3. 出席委員（18名）

1番	村田	省三	委員
2番	音島	義孝	委員
3番	大伴	四郎左衛門	委員
4番	濱田	博之	委員
5番	井上	一夫	委員
6番	小谷	英利	委員
7番	森元	直紀	委員
8番	音野	茂	委員
9番	上田	雄亮	委員
10番	正田	富美子	委員
11番	万木	巳壽	委員
12番	本郷	忠史	委員
13番	上野	壽久	委員
14番	西村	浩	委員
15番	森	繁孝	委員
16番	石津	正嗣	委員
17番	上坂	雅彦	委員
18番	安井	善次	委員

4. 欠席委員（0名）

5. 説明員（2名）

6. 傍聴人（1名）

7. 議事日程

議案第81号 農地法第3条第1項の規定による許可申請について

議案第82号 農地法第4条第1項の規定による許可申請について

議案第83号 農地法第5条第1項の規定による許可申請について

議案第84号 農地転用許可に係る事業計画の変更承認について

議案第85号 民事執行法による競売の買受適格証明書及び農地法第5条許可について

議案第86号 農用地利用集積計画について

議案第87号 農用地利用集積等促進計画の案に関する意見について

議案第88号 権限委譲に伴う農地法関係事務の委任について

- 報告第100号 農地法第3条第1項の許可申請（競売落札後）について
報告第101号 農地法第4条第1項第7号の規定による農地転用届出について
報告第102号 農地法第5条第1項第6号の規定による農地転用届出について
報告第103号 農地法施行規則第29条第1項第1号の規定による農地転用届出について
報告第104号 農地法第3条の3の規定による権利取得の届出について
報告第105号 農地の転用事実等に関する照会について

8. 事務局

事務局長、事務局次長、係長、主任

9. 会議の概要

事務局長 それでは、定刻となりましたので、第25期第20回大津市農業委員会定例総会を開会いたします。

最初に、大津市農業委員憲章の斉唱を行いますので、ご起立をお願いいたします。

なお、先唱につきましては、従前からの議席番号順となっております。本日は、議席番号2番 音島 義孝委員に先唱いただきますので、以後一斉に、ご唱和をお願いいたします。

< 大津市農業委員憲章斉唱 >

事務局長 ありがとうございます。ご着席ください。

会議全体の司会進行は副会長の輪番制となっております。本日は南部選出の副会長であります上野 壽久員をお願いいたします。

この後の進行について、よろしくをお願いいたします。

副会長 それでは、議事に先立ちまして、本定例会総会の成立について申し上げます。

本日は全委員にご出席いただいております。農業委員会等に関する法律第27条第3項の規定により、本定例総会は成立しておりますことをご報告申し上げます。

次に、会長からご挨拶いただきます。

会 長 < 会長挨拶 >

副会長 ありがとうございます。

それでは、議事進行につきましては、大津市農業委員会会議規則第5条の規定により、会長をお願いしたいと思います。

会長、よろしく申し上げます。

議長 それでは、日程に従い始めさせていただきます。
議事録の整理のため、発言にあたっては挙手し、議席番号と氏名を述べていただいた上で、ご発言いただきますよう、お願いいたします。
また、携帯電話につきましては、電源をお切りいただくか、マナーモードに設定していただきますよう、よろしくお祈りを申し上げます。
議事が円滑に進行できますよう、よろしくご協力をお願いいたします。
大津市農業委員会会議規則第11条に基づき、本日の議事録署名人を指名いたします。

6番 小谷 英利 委員

7番 森元 直紀 委員

よろしくお祈りを申し上げます。

ただいまから議事に入ります。

なお、お手元に農地法第3条・第4条・第5条の許可要件を説明した資料を備えていますので、許可・不許可の判断資料としてご活用ください。

まず初めに、議案第78号 農地法第3条第1項の規定による許可申請について、前回継続審議となっていましたNo. 3を議題とします。事務局の説明を求めます。

<事務局、資料に基づき説明>

議長 ありがとうございます。

説明が終わりましたので、農地法第3条の趣旨に照らし、申請農地について権利の設定・移転が妥当であるかどうか、地元委員のご意見をお伺いします。

No. 3の伊香立北在地町及び伊香立下在地町につきまして、地元委員より、ご意見をお願いいたします。

委員 今回のこの農地に関してですが、昨年12月6日に申請者、そして私と推進委員で立会いを行いました。

申請地の農地に関しましては、5ページの写真で見させていただきますとおり、畑に関しては既に柿が植わっておりました。〇〇の田んぼに関しては、昨年度は既に1回営農されておりました、見に行った時には営農した後の農地になっておりました、こちらに関しては譲受人の方が譲り受けたとしても、今後、営農に関しては問題ないかというふうに感じております。

問題なのは、今回議題として上がっていましたが4ページでございます〇〇及び〇〇の農地に関してです。説明のありましたとおり、1筆の田んぼで圃場に対して3名、4名、もう1筆に関してはもう一人の方と1つの田んぼに所有者が複数存在するような状況となっております。〇〇に関して言いますと、この周辺には同じような状況の農地がたくさんあるという状況でございます。今回、私自身も判断に迷う状況となっております、物

事を判断するに当たりまして情と理で判断するというふうに私はサラリーマン時代、上司から教わりました。今回、これ情で判断する場合で言いますと、今後の伊香立の将来を考えたときに、同じような問題が出てくると。所有者の方が高齢で財産処分をしたいということで、譲渡人に譲るという状況の中で、こういうケースというのは必ず発生してくる事案であるというふうに感じます。

ここで私個人として情で判断するのであれば、こういう状況も今後は認めていかざるを得ないのではないかというふうに考えるのですが、そこでもう一つ、理で判断する場合、農地法第3条というところでいきますと、必ずしも自らが営農する、もしくは受委託ということで進めていかなければならないという状況になります。

しかしながら、この状況を見ますと、自らが耕作するのはちょっと難しい。なぜかと言うと、ほかの方の農地までまとめて耕作しないといけないのではないかというふうに判断してしまうので、そうしますと、ここでこの方がこの場所だけを営農するというのはまず不可能ですし、まとめて営農するかどうかというところも難しい部分があると。

なので、ここで先月から繰越しということで判断できなかったこともありますし、私自身も正月の間、ずっと悩んでいたんですが、結論が出ない状況でございます。ですので、ここにおられる先輩方の長年の知識と経験の中で慎重に判断していただきたい内容ではあるかなというふうに思いますので、よろしくご審議のほど、お願いいたします。

以上です。

議長 ありがとうございます。
それでは、この件に関しまして、ご意見・ご質問はありますでしょうか。

委員 今回の〇〇委員の意見ですが、1枚の中に数名地権者がおられると。これは私どもで言ったら営農組合が1枚の中に4名、5名がおられるところを、利用権設定をもってそういう担保をもって営農していると。ですから、その中にAさん、Bさんがおられてもその権利移動を阻害することはできないのではないかと。それを阻害してしまうと、元の地権者が困った場合に、例えば亡くなられたとか売買したいとかという場合に、それができない状態になってしまいますので、そういう場合は認めざるを得ないのかなというふうに思っています。それが1点です。

あと質問で、これは私、この申請者については就任した時、8月ですね、8月第1回目からたびたび出てくる案件でして、当初4万㎡ちょっとお持ちだったと思いますが、最初、〇〇だったと思いますが、それからたびたび出てきて、今、既に6万3,000㎡、これを持つと7万㎡弱になるんですね。これが本当に今、書いておられる5名でやれるのかどうか。〇〇を拠点に点在した田んぼをできるのかどうかというのを大変疑問視してしまっていて、先ほどおっしゃったように、貸すということを前提に取得していたという

ことであれば、これはもともとの要件、世帯員含めて、これを含めてしなければいけないということになっているんですが、そこがまず問題だと思いますし、そのことについて昨年度、3条の追跡調査をされたと思うんですが、その時に、この方の現状はどうであったということをお聞かせいただきたい。これが1点目です。

2点目は、これはとどまることがないんですね。ずっと出てきて、今、7万㎡。例えば、これが10haになろうが20haになろうが認めていくということになるのか、その考え方を事務局から教えていただきたい。

3点目がこの前、総会の後の研修の時に、3条の案件の研修があった時に、この話が委員などから出たと思いますが、要はこの3条の譲渡をして貸すという言葉が少し出ていたと思うんです。その時、私は貸すことを前提に、この3条の許可というのが認められるかどうかといったときに、事務局はそれもありかなと。ありかなという言葉だったか記憶はちょっと定かではないですが、今回こういう件も含めて、これ、大変な量の、普通ではなかなか考えられない、個人営農ではなかなか考えられない量の土地を貸すことが前提とあった場合、それを認めるのかどうか。これは今後のために教えておいていただきたいと。これが3点目です。

それだけです。以上です。

議 長 ありがとうございます。今の質問に対して事務局のほう。

事 務 局 まず、1点目、今回のこの後追い調査の状況の報告ですが、まだ報告はいただいている状況です。

ただ、今回、申請されるに当たって、本市が所有している航空写真などを見て、荒れている農地がないかどうかを判断した上で、全部効率要件に抵触しないだろうと。明らかな違法転用はないだろうというところから申請を受理したところでございます。

2点目の、際限なく農地を買っていけるかどうかというところですが、当然、今回是非々で判断すべき事項かなと思っております、その誰が見ても膨大な量の農地を所有されている中で、もし今後、同じ買い足したいというような申請が出てきた場合は、詳しくご本人から聞き取って、今の営農状況なども含めた上で総合的に勘案していくしかないのかなと。ですので、例えばこれが10haに到達したらそれ以上は買えないとか、そういう規定は農地法上なかったと理解しておりますので、繰り返しになりますが、出てきたときに担当者、もちろん事務局としても目を変えて厳しく見ていく必要があるのではないかなと考えております。

3点目、この貸すことを前提としてという今、ご指摘があったのですが、私もどう回答をしたか記憶が定かでない、誠に申し訳ないですが、小作に出すことを前提にということになると、これは農地法上、認められませんので。

3条というのは属人性といいまして、ご自身が営農するというのが大前

提になった許可申請になってきます。ですので、受委託、何度も申し上げている、そこで何を作るか、その決定権が所有者にある。そこでできたものの名義は、当然その所有者が持っており、当然耕作を依頼するのであれば、その依頼した方に対して何かしらの対価を払う、こういうものが3つの要件を満たした契約を結んでいけば問題ないというような一定方針というか、通知が出ておりますので、そういう受委託契約を結ぶという前提での3条申請であれば、場合によっては許可やむなしなのかなというふうに担当としては考えております。

以上です。

議長 ありがとうございます。〇〇委員、よろしいですか。

委員 最後の受委託が適切に行われていれば、それは要件に当てはまる、別に問題ないと。ということは、最初からそれを目的にされた場合、一旦営農してしばらくは営農して、それから貸す、何なりの形で受委託をして利用権設定をしてやるということであれば、問題ないという判断なんですか。

事務局 初めから受委託に出す、自分はこの農地については一切ノータッチだと言われてしまうと、いやいや、ちょっと待ってください、申請できませんという話になるのですが、今回、私が受け付ける時に迷ったというのが、必ず組合とか個人には出すが草刈りなど大事な農作業は自分でやるので完全に丸投げするのではないと先方がおっしゃっていて、かつそういう受委託も必要ですというふうにご案内差し上げて、申請を受理しておりますので、ニュアンス的に全く自分がノータッチであれば、受付の段階ではねなければいけないのかなというふうに考えております。

以上です。

委員 例えば、先ほど〇〇委員がおっしゃったような1枚の田んぼがあって、どこかの営農組合なり、そういう民間営農会社なり、そういうところは分からないことはないんですよ。ですが、独自に1枚ずつ田んぼがあるところは、これは個人営農として申請者及び世帯人がやってもらわないといけないというのが基本ですよ。

事務局 はい。

委員 なのに、申請時点からもう受委託を見込んでというのは僕にはなかなか理解できないのですけれども、そういう要件処理なら仕方ないと思います。それと、冒頭1点目の上限、法律上は何もないのですけれども、感覚的にあかんとかというのなかなか難しいんですよ。ですから、その辺は何か一定決め事しておかないと、今後、ずっと出てくる可能性が。今のところ、とどまっていませんよね。去年就任してからずっと出てきていると

と思いますが、もう7万㎡、20haになっても認めるのかと最後なってくるので、それは事務局として考え方を整理していただきたいと思います。これは要望です。

事務局 はい。

委員 この〇〇さん、私の担当の〇〇地区で2筆買われて、去年もまた2筆買われて、私、農業委員をする前に推進委員をやっている、その時も1筆買われたところを現地確認しました。その推進委員の時に1筆買われた時に話を聞いたら、もうその隣を何年か前に買ったと。〇〇さんは今、〇〇にしてもらっていると言ったのか、その辺が私もその時点ではまだ推進委員だったので話を聞いた確かな記憶はないのですが、〇〇が栽培して花か何か植えているという状況でした。今回、3条の確認で会いまして、買われたところは全部見ましたが、結果的には私が確認した時の状況と全く一緒に、全部保全管理だけはされていました。

それで、1つ立ち会った時に、たまたまちょっと離れたところもあったのですが、そこはちょうど草刈りがしてあったんですよ。あれは私が草刈りをしてもらっているというふうにおっしゃって、保全管理のために自分ができないから誰かに頼んでやっておられるんですねということで、そうですとおっしゃっていました。それが今の現状でございます。

以上でございます。

議長 これ、事務局のほうで、この〇〇さんに対して今までの部分、今おっしゃったみたいに、ちゃんと保全管理ができているのか、何か作物を植えておられるのかというのを時間かけて確認をするということは可能ですかね。

事務局 可能だと思います。

議長 その辺は厳しい目で見ただけが先ほどの質問とかに関して対応できるような状態にしておかないと、もう無限に買われるとどうしようもなくなると思うので、そういう部分に気をつけて対応していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

事務局 はい。

議長 お願いします。
そのほかに。

委員 先ほど〇〇委員がおっしゃられたとおり、〇〇の中で購入された分、私が過去に立ち会った分は確認しましたところ、同じように草が刈られて保全管理をされておりました。

ただ、営農がされたという跡はなかったんです。

ただ、今回の譲渡人と譲受人の譲渡理由を見ていただいたときに、やはり気になるのは、この譲渡人が耕作困難だということです。営農という形をどう捉えるのかによるのですが、保全管理をされるだけまだ農地が荒れることはないというのが今までの私の中であり、これは許可相当ではないかという判断の1つとしてはありました。

現にこの方に関して言いますと、個人のことをどうだというのはあれですが、お金は持たれている方なので、農地を所有した限りはその責任という部分に関していきますと、今のところは果たされているようには思っているのですが、おっしゃられるとおり、面積が増えていくに当たって荒れてくるとか、何か違うことをするということがないように感じられるんです。

ただ、そういう部分に関しては、今までの1筆1人に対して購入された後、営農はされないにしても保全管理されるから問題はないかなというふうには思ってはきたのですが、今回に関してはそこが少しどうしてもそういう形ではいけない状況があるのかなと。どうしても3条という中で、自らが耕作、もしくは受委託というところが大前提であるのであれば、営農組合がやっている分に関しては組合員であるので、解釈としては受委託という形を取れるのかもしれませんが、もう1筆に関していくと個人の方がやられていると。そこに対して自らが耕作、もしくは受委託というのはちょっと難しいのではないかなというのが頭の中に引っかかっている部分であります。

委 員

今の1点目の〇〇委員と〇〇委員のおっしゃった現況保全というのは、これは耕作をしているということには当たらないと思うんです。この3条というのは、あくまでも農地を耕作して農地としてやるということは、農業をすることが前提として権利譲渡するというのが前提なのに、それは荒廃農地になる可能性を未然に防いでいただいているというのは分かりますが、この法律の趣旨からしたらそれは本末転倒ではないかと。それが1点目です。

それと、誰かに営農されているという、1筆の中にあるというのがあるのですが、これは誰かにやってもらっているので、その土地については耕作困難というのは基本的に考えられない表現の仕方だと思うんですね。私どもで言ったら、1町1枚の田んぼに5人、6人、それはもう営農組合に頼っていると。ですから、耕作困難ではありません。ですから、ここに明記しているその一団の土地の中に何筆かあるという土地については、それは耕作困難という言葉には当たらないと理解したんですが、どうですか。

事 務 局

私も正直、譲受理由、譲渡利用というのがどういうカテゴリーに属すのかなと判断に迷うところはあるのですが、先ほど〇〇委員がおっしゃったとおり、ご本人自身は遠方にお住まいで、かつ金銭面的にも苦しい、何とかこの農地を譲りたい。かつ、それに加えて高齢となってくると、いよいよ

よもって相続人もいないようなケースが話の中にあったりして、そうなってくると、いよいよその方が亡くなられたときに誰も相続人がいなくなりますので、そうなってくるぐらいだったら耕作困難というある意味、便利な言葉に頼ってしまっているところが多々ありまして、この議案書をつくっていて少し心苦しいところはあるのですが、主にそういう金銭面的な事情、高齢、あと遠方にお住まい、こういったものについては耕作困難というカテゴリーに属するというふうに一定自分の中で整理して、この議案書をつくっている次第でございます。

以上でございます。

委員 もう1点、すみません。

先ほど冒頭言いましたように、保全管理をもってこの要件を満たしているということになるのか否かをちょっと教えていただけませんか。要は、農地として、そこまででいいという判断ならそれはそれでいいのですが。

事務局 正直申し上げて、保全管理というのは非常にグレーだと思います。営農という限りは、そこで作物を取って、そこで収穫して、それを売るというその一連の行為こそがまさしく営農ということにはなるんですが、実は今回に当たりましていろいろ近隣の市町に聞いたところ、がちり今回の事例に当てはまるようなケースはなかったんです。

ただ、各市町見解というのは一定ありまして、どの市町に聞いても、正直荒れることが確定していて、今後相続人も出てこずに相続放棄されることが見込まれるのであれば、まだ生前話がついたのであれば大局的な考え方でもって許可せざるを得ないのではないかと、どの担当者も最終的にはそういう結論に至っていると。

ですので、今回の譲渡人がきっちりご自身の所有されている広大な農地で営農しているかどうかと言われると、自信を持ってしているというふうには言えない状況です。そこも含めてご判断いただければと思います。

以上です。

委員 先ほど〇〇委員が情と理でおっしゃったのかな。それで、情のほうでは思うのですが、地元の〇〇地区の人に話を聞きますと、圃場整備ができていないし、1反が2畝とか1畝とかいう田もあって、そこをほとんど手放したい人が多くて、それを買ってくださってありがたいということでおっしゃっていました。

ただ、推進委員がその地区の人で話も聞いたのですが、他所から土地を買っているところを見ると、昔からの集落の土地を守りたいという意識があって嫌な感じはするのですが、何も悪いことはしておられないとおっしゃっていました。

それと、放っておいたらもう藪になってしまうから、別にお買っていて守りしていただいていたなら、それでいいのではないかという考えを示

されておられました。その辺が法的にどう考えるか、情的にどう考えるかということと私は思うので、その辺の判断をまた法的にさせていただいたら、今後の進め方ではないかと思えます。

以上です。

議長 はい、ありがとうございます。
ほかにご意見・ご質問ございませんか。

委員 うちの地区でも土地を購入されて、耕作は絶対してください、それが条件ですとお願いしていました。現に先シーズンも耕作されていました。水稲を作付けされていて、管理もちゃんとされています。できるところはちゃんとしておられると思うんです。

ただ、今回のこのケースでは、ここの土地、多分もう地域計画を策定されていると思うのですが、その地域計画では、ここの対象の農地はどのように計画されているんですか。それを教えていただきたい。

事務局 先ほどご質問のあった地域計画の件ですが、3条の申請があった場合には必ず農林水産課のほうに照会をしております。その回答の結果は、特にここは着色された、要するに地域計画の位置づけの場所ではないと。

委員 多分、まだ決まっていないので未定のままで出されていたのかなというふうに憶測があるのですが、これ、譲渡人さん、遠方の方で、多分これこのまま相続人さんおられずに宙に浮いてしまったら、それこそもう、ここの土地改良区内でもありますのでここの土地改良区や近隣の方々が迷惑されるのであれば、作業受委託をしっかりと交わされるのであれば、この田2筆に関しては作業委託されるという名目で受けてもいいのではないかと。
そのほかの1筆1筆、独立しているところは、必ずご自身で営農のほうをされるというような条件付きで履行するというのは駄目なんではないでしょうか。
以上です。

議長 事務局、今の話だとどうですか。

事務局 総会後にお渡ししている許可書の中に、許可条件を追記することは可能でございます。

議長 それならそのように対応を。

事務局 失礼しました。4条、5条だけということはどうしましょう。

委員 3条は売買できたらそれで完了ということですね。

事務局

はい。

3条に許可条件を入れていいかどうかという点については法的に確認が取れておりません。

議長

局長、何か解決方法はありますか。

事務局長

その許可要件に入れるかどうかは別としまして、先ほどの営農組合なり作業受委託をするという例えば確約をもらってもらうことを条件とするというのは言えるのかなというところで、例えば許可書を発行する前に、営農組合なりと作業受委託をきちっとしますということの契約書を先に交わしてもらって、それを条件に許可書を交付というのは手法的にできるのかなと。もしくは、その許可条件の中に入れるというのであれば許可条件に入れる、条件付きの許可ができるのであればそれも有りかなと思いますので、そのいずれかの手法、いずれにせよその作業受委託の契約書なり確認できるものを提出していただくことを条件の許可という扱いで、今までの課題は一定クリアできるのかなというふうには考えております。

議長

今後、いろんな問題が出てくるやろうし、その辺を柔軟にその時の議案に対して対応できるような方法を取っておかないと、今後、また他のエリアでも出てくる可能性があるんで、その辺を事務局のほうで精査してもらって対応をしてもらうようお願いをしたいと思います。よろしくお願いします。

事務局長

はい。

議長

そしたら、許可条件付きということでもいいのかな。事務局。

事務局長

もしそれで採決いただけるのであれば、それも1つかなというふうには考えております。

委員

その許可は条件が下りてからだと担保しておかないといけないのと違うかな。今、ここで了解しても許可条件が下りるかどうかわからないから、もう1回許可条件を下ろしてそれを我々が確認してからでなかったら採決を取れないのと違うのかな。私はそのように思いますが。

事務局

ただいまご指摘がありました、まずはご本人に今日のこの総会の結果をお伝えして、許可するのであれば、こういう条件を満たしてくださいということをお伝えした結果、それを譲受人がのむのであれば、また今回も継続にはなってしまうのですが、次回の総会時に結果のほうをお伝えさせていただきます。

議 長 今、次長がおっしゃっていることが聞こえなかったのですが、どういうことか説明をお願いします。

事 務 局 私の個人的な意見になるのかもしれませんが、まず以前から国から言われていることで、以前はたくさん申請に当たって添付資料を求めていたのですが、去年か一昨年かな、国のほうの通達でできるだけ資料については添付を求めたらいけないと、過度な資料の添付を求めて、それを提出しなかったら許可しないよという条件をつけるのはいけないというのが出ていたりしているの、その辺も考えないといけないかなというのがあります。

それからもう1点、条件づけということですが、条件というのは、この審議の中で、こういう条件とこういう条件をつけていたら許可してもいいよというのを諮ってもらわないことには、条件つきで許可しますというふうにご審議いただいて、それならその許可条件を誰がつけるのや、誰が考えるのやという話になってきますので、こういう条件をつけた上で許可してよろしいかというご判断をいただいたほうがいいのかなと思います。

議 長 そうしましたら、その許可条件についてどういう許可が必要かと。

事務局長 手法的なものです、例えば許可条件をつけても作業受委託の契約書はされないということが考えられますので、それであれば、例えば今日の中では作業受委託の契約書が正式に出てきたら、そのほかは特に問題ないよということで確認いただけるのであれば、申請者のほうに作業受委託の契約書を持ってきたら、また繰越しにはなりますが、次の総会で議決をもらえるというような方向になったのでもらえるかということのを投げかけて、もらえませんでしたであれば、それをもって不許可になると思いますし、もらってこられたらそれをもって許可すると、そういう方向の確認だけ今日していただければ、それで持ちかけるのはどうかなと思っております。

委 員 それでいいな。

事務局長 今日、また繰越しという扱いはなりますが、そういう方向の確認ということで。

委 員 賛成や。

委 員 今の話、この案件に関わってだけではないんですね。ずっとこの7万㎡分あるわけです。ですから、今、これに単独で条件をつけたって、それはその単発でしかありませんから、私は提案ですよ、条件をつけずに過年度の分の経過観察をやっぱり行っていくと。去年やったような状況で、例えば〇〇委員がやったところは保全だけしかできていない。これはやっぱり営農してもらうように指導していかないといけない。そういう指示なり指

導書の文書でそういう状態のところは相手方に渡すというふうにやっていないと、これだけ条件をつけたってほかのところは条件は何もついていませんから同じ状態になるわけで、私が思うのはこれは条件なしで認めるなら認めると。それで、今まであった許可を何万㎡、もともと持ってはった土地が何ぼかあると思うんで、それも含めて経過観察を実施していくということで考えていただいたらいかがでしょうか。

以上です。

委員 今おっしゃっていたのはちょっと争点が違うかなと僕は認識していたんです。

ただ、大きい面積になったからこの譲受人さんが耕作をはなからできないのと違うかというところを担保するために状況確認をせえというふうにおっしゃっていると思いますが、今回はこの田んぼの〇〇番と〇〇番、1筆のところ複数の所有者さんがおられるところを、どうやって自分で耕作するんや、自分で耕作できなかつたらこれは3条の申請に逸脱しているのではないかと。それで、不許可になるのではないというのが今回のこの議論の争点だったと思うんです。

ですので、〇〇番の複数名いらっしゃるのところの1筆に関しては、その譲受人さんからちゃんとそこの営農組合に作業委託をお願いしますという受委託を交わしてもらって、この〇〇に関しましてはここでやっておられる個人さんであってもそこで作業委託をしてもらいますというような書面が出てきたら、この2筆に関してはクリアできるので、僕はその確約を取っておけば、今回の案件はいいのではないかなと。

また、ほかにも出てくるときは、また個々でその申請一つ一つで審議をかけていって、妥当なのか、不許可なのかという判断が必要になるのではないかなと僕はと思いますが、会長、いかがでしょうか。

議長 そうですね。今のところ、この問題点は共有名義というのですか、農業者さんがおられますので、その方が耕作困難やということで手放されるのですが、この方も一応農業者ということで、やっぱり〇〇委員が懸念しておられるみたいに、そのまま放つたらかしになるということがないようにするためには、今の話で、共有者さんは一応ご理解はいただいているというふうに聞いているんです。

事務局 関係している周辺及び隣接の地権者、あと実際そこで耕作されているところから全て自署で押印も含めて書類は確認をしております。

議長 この辺は全く知らないということもないので、そのように耕作をするという条件はその時につけていかないといけないのかなと思います。

委員 今、〇〇委員がおっしゃった件、私もそれには賛同しています。

もう一つ、〇〇委員が先ほどおっしゃった件。特にこの〇〇さんの今までから約6万何ぼ、大方7万何ぼ買っておられる農地、これは恐らく耕作されているとはなかなか思えないような状態だと思うんです。中には一部は誰か熱心にやっておられるかもわからないが、ほとんどが今、保全管理が精いっぱいやと思っているんです。保全管理というのが耕作と相反するというよりも、実際にここで上がってくる耕作しますと書面で書いてある中で、保全管理とイチゴを作ります、芋を植えます話とは全く異質なものとしたいと思います。

それで、今日の案件は、先ほど言われたような形で一旦受委託を誰がされるかという担保を取ってから我々は諮っていただきたいと思います。

それともう一つ、パラレルに、この〇〇さんの今まで持っておられる農地、約7万ほどの面積ですか。それは事務局も実際のところ、その農地が耕作されているのか、実際営農されているのかというところを遡ってウオッチングしてほしいんです。今後、また〇〇さんが出てきた場合は、あくまでもこういう形でできた場合は、営農を担保するために受委託の契約書なりそれをつけてもらう必要性もあるというのと同時に、過去遡っても営農されている気配がないというのも1つはこの審議をする場所に出してほしいんです。それで、我々の判定材料にさせてほしいし。そうでないと、今までからずっと〇〇さんの人助けの形でやっておられるような農地を確保されるのはいいが、実際、地元の方は助かっておられると思いますが、我々農業委員としては、そこら辺は適正なジャッジをしていかなければならないので、その辺、過去に遡って事務局にお願いしたいなど。

以上です。

議 長 先ほども言っていましたが、それは可能なのですね。確認するというのは。

事務局 たちまち1週間、2週間では無理ですが、はい。

議 長 それは時間もかかるだろうし、人員もすぐには確保できないから、例えばどこかの現地確認に行くときに、その周辺のものを見てもらうと、そういうようなことで対応してもらったら、時間はかかるでしょうが、できるかなと思います。

委 員 今、私が言ったような形でもし過去に遡って〇〇さんを調査するような感じですが、地元委員さんとして〇〇委員、実際、私が言ったような形でこれから今後、〇〇さんが出してこられたときに、今の営農計画を担保するのと、それから過去に遡って、過去をほじくるわけではないが、過去に農地として買われたところがほとんど耕作放棄地みたいな形で保全管理だけしかしていないということを言って、今後、買うことは差し控えたほうがいいのかというような形になってきたら、地元の農業委員さんと

して何かお困り事が出てきますか。

委員 自分が1つ懸念としてあるのが、私も農地でやっているのですが、持っている農地を耕しているわけではないのです。一部は保全管理という形でしているところもあるんですね。それは何でかと言うと、やはり田んぼがあるから必ず耕さなあかんというのが大前提なんでしょうが、そこにあるのは収支なんですよ。昨年から米の値段が上がりまして、ようやくというところはあるのですが、まだまだ作っても赤字な場所って結構あるんですよ。そこを持っているから必ずやらなあかんとなると、農家としては痛いんですよ。

私も30何筆やっている中で、3筆ぐらいは保全管理の場所があるんです。何でかと言うと、そこで作っても赤字になるのが分かっているの。となると、〇〇さんをフォローするわけではないのですが、作っても赤字になるのをわざわざ作らないといけないとなったときに、どうなのかなというのが1つと私もそういう経営の観点からいくと何筆かが保全管理をしている前提がある中で、〇〇さんに対して耕してくれよと言うと揚げ足を取られる可能性がないとは言えないのかなというのが1つあります。そこが判断というか、追跡して耕してくれよと例えば書面なり何なりで注意喚起するなりすると、そういうところで懸念する場所って出てくるのではないかなというのは、すごい感じる場所なんですよ。

だから、そこを堂々とやってくれと言いたいのは個人としてはあるのですが、反面、おまえ、やっていないやんと言われたときに、返す言葉がないというところがどうしても出てくるんです。というのが、ちょっとジレンマとしてはあるかなというところですよ。

議長 保全管理の面積もあると思うんですよ。ここの保全管理は事務局、どのぐらいあるか調べてください。そうでないと、今言っておられる30何筆のうちの3筆と例えば何筆ぐらいあるのか知らないですが、100のうち50が保全管理とか言ったら、それはちょっと問題かなというふうには思うので、今後のことに関しても紙に確認してほしいなと思うのですが、いかがですか。いけますか。そんなのできるの。

委員 データを使ってアプリで飛ばして調査して、田へ行って写真を撮ってきて、耕作しているかというのだったらできるんですか。

議長 方法はお任せしますので。

委員 遊休農地調査の対象にはなっていないわけ。そういうデータが出てきたら分かるわな。

議長 時間を置いて、その辺のことをよろしくお願いします。

そしたら、これは継続審議ということになるのか。採決しないでいいのか。条件何もつけないで採決するよりも。

事務局長 採決する判断材料として、先ほど話題に出ていた中で、作業受委託の契約書が出てきたらそれをもってよしとするということであれば、そういうお話もできますし、それ以外にもこういうようなものということを申請者側に指示するものがあれば、その辺も併せてご議論いただいた上で継続という扱いにしていただければ、次回の時に出てきたらマル、出てこなかったらペケという明確な基準もできますので、そういう扱いでの検討をいただければなというふうには思います。

議長 ということは、採決しておいてということか。

事務局長 出てこなかったらということになりますので、継続は継続という扱い、再度継続にしていいただいて、先ほどの作業受委託の書類が来月までに出てきたらそれで最終よしとすると。

議長 来月に採決をしたらいいのか。

事務局長 もしくは、出てくるのを総会の議決にするか、例えば会長専決、または役員会での確認という形で、仮の議決みたいな形ですね。出てきたら会長専決、もしくは役員会での確認で許可を出す。出てこなかったら、それまでずっと保留状態みたいな形で。

議長 受け付けないということですね。

事務局長 はい。そういう形でのご議決ということも手法としては考えられるのかなというふうには。変則的なやり方にはなりますが。もしくは、その方向だけの確認で議決はもう来月、次回に繰越しというのもありかなと思いますので、その辺の手法でいかがかなというふうに思います。

議長 そのような対応で〇〇委員、よろしいか。

委員 そうですね。それは非常に難しい案件だと。

委員 さっきちょっと立ち話的に発言しておられないところで、ここの周りの人らのちゃんと承諾しておられる書類があるというふうに事務局、おっしゃられていたのですが、そういう書類とかと一緒に作業受委託の申請書やらを添付した上で、この書類と一緒にもう一回総会にかけてもらうというのはいかがでしょうか。

議 長 それで、事務局、よろしいか。

事務局長 はい。ですので、次回は同意書と作業受委託の契約書をお配りさせていただくと。

議 長 受委託の書類を提出してもらうように会で決まりましたと言って対応してくれますか。

事務局長 はい。

委 員 生産調整というような田がありますね。私も63%植えて、あとは生産調整せよということで。私らの地域は地域で63%耕作して、あと残りは放棄しておいたらいかん、保全管理したらいいと。

それなら、たまたま今、思ったのですが、〇〇さんが自分の地域でうちの全部保全管理にしといてくれと、それを生産調整に入れておいてくれたらいいと、うちの地域でも5反ほどあったところ、皆、生産調整になってほかの人、皆、植えられて喜んでおられました。案として、その人はそういう考えもあるのかなと今ふっと思ったので、参考に言わせていただきました。すみません。

議 長 今の〇〇委員のご意見も含めて確認をするというのは難しいの。

委 員 いろいろご意見が出た中で、私の思い1つだけなのですが、今の生産調整自体は確かに減反、転作というのが厳しく各地域でありました。その中で保全管理という名目はあったのです。ですから、保全管理は将来、田を作って米が必要なときに必ず予備田というんですかね、そういう意味で管理転作と。管理転作はほか野菜を作ったりいろいろ、それも限界もあるしね。だから、単に水をためるだけとか草刈りだけとかそういうことも可能だったんです。それが国の政策でもあったんです。だから、保全管理というのは確かに管理してもらっていたら将来的には生きる田んぼだから、それは通ると思うんです。だから、あくまでも本来は農地というのは耕作の用に供するというのが。それで、営農するという目的もあるのですが、それとは別に政策として保全管理という意味も確かに将来のために生きてくると思うんです。

そういう意味で、保全管理やから無視して、それなら駄目やというのは、私も狭い考えかもしれないですが、ちょっと行き過ぎではないかなと思います。ちょっと個人的な意見で、また審議してください。よろしく願います。

議 長 いろいろご意見を先ほどからいただいています。
ただ、この件に関しましては継続審議ということでお願いしたいと思い

ますので、先ほどの書類のほうを言っていただいて、提出いただくように
よろしくをお願いします。

そうしましたら、次の議案第81号 農地法第3条第1項の規定による許
可申請についてを議題といたします。事務局の説明を求めます。

<事務局、資料に基づき説明>

議 長 ありがとうございます。

説明が終わりましたので、農地法第3条の趣旨に照らし、申請農地につ
いて権利の設定・移転が妥当であるかどうか、地元委員のご意見をお伺い
します。

No. 1の大將軍二丁目につきまして、地元委員より、ご意見をお願いいた
します。

委 員 この案件ですが、12月23日に私と推進委員と譲受人で立会いをさせてい
ただきました。この立会いの前に、この後で出てきます5条申請の関係の
立会いもあったのですが、この3条の分について説明させていただきます
と、譲受人の〇〇の代表者になります。

現地は何年も前から耕作者が、小作人として入れ替わりで田んぼで耕作
を続けてこられた土地でして、譲渡人は前から農業に従事しておられなか
った状態でございます。その土地も2年ぐらい前から小作人の方が耕作を
やめられてから耕作される方がおられない状態だったのですが、今回、譲
受人が買われて畑をされるということで、ほかの土地でも田をお持ちでお
聞きしていますと、〇〇とか〇〇、それから〇〇のほうでも田んぼをやっ
ておられまして、農機具は〇〇のほうにあるのですが、事務所兼倉庫みた
いなものもありまして、そこに置いておられるということで、そこから移
動させて、農業をやっておられる次第であります。

〇〇と言うと、〇〇をしているとかそんなだけと違うのかということ
ですが、そういうふうには農業のほうも一応やっておられるということでご
ざいましたので、この土地を〇〇さんが畑ですが一応やっただけ、ほ
かにも田んぼをやっておられるということでこのまま続けていっていただ
けるとお思いますので、よろしくご審議のほどお願いいたします。

議 長 ありがとうございます。何かご意見・ご質問はありますか。よろしい
でしょうか。

(なしの声)

議 長 ご意見・ご質問もないようですので、お諮りします。
No. 1について、賛成の方は挙手をお願いします。

<採 決>

議 長 挙手全員により、議案第81号 農地法第3条第1項の規定による許可申請No.1は許可することに決定いたします。

続きまして、議案第82号 農地法第4条第1項の規定による許可申請についてを議題といたします。事務局の説明を求めます。

<事務局、資料に基づき説明>

議 長 説明が終わりました。

なお、本案件は顛末案件であり、一日立会委員の現地調査は実施いたしませんでした。

農地法第4条の農地転用許可基準から見た審査状況について、地元の委員のご意見をお伺いします。

No.1の伊香立向在地町につきまして、〇〇委員より、ご意見をお願いします。

委 員 今回のこの案件に関しましては顛末案件ということで、12月26日に私と地元推進委員、そして申請者代理人の行政書士と3名で立ち会いました。

9ページの写真、②番の〇〇に関して言いますと、もうコンクリートで埋められていましたので、完全に畑として痕跡もないような状況になっておりまして、露天駐車場として長い間、使われていたということです。

もちろん、雨水とかそういう形で、ほかの隣接農地がありませんので、影響を及ぼすということはありません。逆に言いますと、荒廃して草木が茂って道の視界をふさぐということはないので、これは顛末案件ではありますが、周りの交通に関しても支障のないような状況となっております。

続きまして、①番のほうですが、こちらは畑に防草シートを敷いてあるような状況でございました。これが顛末になるかどうかということとはちょっと難しいところがあると思います。防草シートをめくってしまえば、畑として使えないのではないかとということですが、本人さんの意向としては庭の一部としておきたいということで現状は防草シートを敷かれておりまして、周りの農地への影響というのはほぼないような状況でございますので、ご審議のほど、よろしく願いいたします。

以上です。

議 長 ありがとうございます。これにつきまして何かご意見・ご質問ございますでしょうか。

(なしの声)

議 長 ご意見・ご質問もないようですので、お諮りします。

No. 1につきまして、許可することに賛成の方は挙手をお願いします。

<採 決>

議 長 挙手全員により、議案第82号 農地法第4条第1項の規定による許可申請No.1は許可することに決定いたします。

続きまして、議案第83号 農地法第5条第1項の規定による許可申請についてを議題といたします。事務局の説明を求めます。

<事務局、資料に基づき説明>

議 長 ありがとうございます。

説明が終わりましたので、12月23日に実施いたしました現地調査は、一日立会委員に調査していただきましたので、農地法第5条の農地転用許可基準から見た審査状況について、ご報告をお願いします。

なお、No.1の真野三丁目につきましては、地元委員としての意見も併せてお伺いします。

委 員 今回、農地法第5条の申請で、整理番号1番、真野三丁目の土地ですが、ここも以前、委員会に申請されて、今回2回目の延長申請ですので、周辺には害は全然出ていないと思いますので、事務局が言われたとおり大丈夫だと思いますので問題ないと思います。

地元委員としても、ずっと見て回っていましたが、被害が出ることはないと思いますので、ご審議のほど、よろしく願いいたします。

それと、No.2の衣川二丁目の土地です。ここは道路よりは下に入った土地ですので、現在、木とか茂っていますが、少し入りましたが、地面としては碎石を入れていたら使えるかという状態だと思います。

また、隣にある宅地の家は了解を取っておられますので、宅地と資材置場の間にはU字溝が入っており、溢れた自然水を流されると思いますので、何も問題ないと思いますのでご審議のほど、よろしく願いいたします。

No.3の大將軍の土地ですが、ここも公道、公的広場というか、に囲まれているところですので、周辺に農地は道を挟んだ西側に1つありますが、ここはそんなに農業施設を建てても被害が及ぶことはないと思います。また、雨水とかそういうのは自然浸透、もしくはあふれた場合は、この公共施設の間にある水路へ流すということですので、何も問題はないと思いますので皆様、ご審議のほど、よろしく願いいたします。

議 長 ありがとうございます。

No.1は〇〇委員より地元委員としてのご意見をいただきましたので、No.2の衣川二丁目につきまして、〇〇委員より、ご意見ををお願いします。

委員 この件につきましては、事務局、そして今、一日立会委員からもご説明があったとおりでございますが、道路と当該土地については、道路が斜めになっておりまして、この当該地は平場ですが、2 mから大体7 mぐらいの落差があるという土地でございます。周りには農地はございませんし、竹藪も今回取得をされるというエリアになっておりますが、ここについてはなぶらないとのことでございますので、特に問題はないというふうに思います。

付け加えをさせていただきますと、先ほど事務局から進入路2か所とのことで、この計画の中にも黄色で囲った2か所になっておりますが、この写真で言いますと、上になっている民家の隣のところですね。ここは普通に入出りできるような感じなのですが、それよりも写真で言うと左手のところに斜めに黄色の枠で囲っているところについては、勾配もかなり急でございますので、ここについては現実的ではないなと現場でもお話をさせていただいておりました。その結果、この急な斜面のところについては、できることならなぶらないようにしますということで、出入りは1か所からすると、そんなお話がございました。

結果としては大きな問題はないと思いますので、ご審議いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。以上でございます。

議長 ありがとうございます。

続きまして、No. 3の大將軍二丁目につきましては、〇〇委員より、ご意見をお願いします。

委員 12月23日に事務局と1日立会委員、それと私、推進委員で立会いをさせていただきました。

ほぼ説明していただいておりますので何ですが、この土地を利用されることによって、この隣地関係図を見ていただきますと、3条の説明をさせていただいた田んぼがその公道の向かい側にありまして、ここでの水路の関係は確かにあるのですが、〇〇さんという〇〇の畑のところを通過して、なおかつ水路としているところですが、これは上のほうに、〇〇川というところですが、このの堤防敷を通過して〇〇の田んぼのほうに水路が行っておりますので、水利組合としての問題も特にございませんでした。ご報告をさせていただきます。

あとは、特にここで農業倉庫をしていただいで、これからもずっと地域で粃の乾燥、脱穀というのをやっていただきたいと思いますので、よろしくご審議のほどお願いいたします。

議長 ありがとうございます。

それでは、1から3について何かご意見・ご質問はございますでしょうか。よろしいですか。

(なしの声)

議 長 それでは、ご意見等もないようですので、お諮りします。
No. 1につきまして、許可することに賛成の方は挙手をお願いします。

<採 決>

議 長 挙手全員により、議案第83号 農地法第5条第1項の規定による許可申請No.1は許可することに決定いたします。
続きまして、No. 2につきまして、賛成の方は挙手をお願いします。

<採 決>

議 長 挙手全員により、議案第83号 農地法第5条第1項の規定による許可申請No.2は許可することに決定いたします。
続きまして、No. 3につきまして、賛成の方は挙手をお願いします。

<採 決>

議 長 挙手全員により、議案第83号 農地法第5条第1項の規定による許可申請No.3は許可することに決定いたします。
続きまして、議案第84号 農地転用許可に係る事業計画の変更承認についてを議題といたします。事務局の説明を求めます。

<事務局、資料に基づき説明>

議 長 ありがとうございます。
続きまして、地元委員のご意見をお伺いします。
〇〇委員よりご意見をお願いします。

委 員 今、先ほど事務局からご説明あったとおりです。前回皆さんに審議いただいて了承しているところではあるのですが、地元の意見を聞いていただいて、変更の届を出していただいていますので、何ら問題ないと思いますのでご審議のほど、よろしく願いいたします。

議 長 ありがとうございます。
説明が終わりましたので、何かご意見・ご質問はございますでしょうか。よろしいですか。

(なしの声)

議長 ご意見等もないようですので、お諮りします。
No. 1につきまして、計画の変更を承認することに賛成の方は挙手をお願いします。

<採 決>

議長 挙手全員により、議案第84号 農地転用許可に係る事業計画の変更承認についてNo. 1は、計画の変更を承認することに決定いたします。
続きまして、議案第85号 民事執行法による競売の買受適格証明書及び農地法第5条許可についてを議題といたします。事務局の説明を求めます。

<事務局、資料に基づき説明>

議長 ありがとうございます。
説明が終わりました。
12月23日に実施いたしました現地調査は、一日立会委員に調査していただきましたので、農地法第5条の農地転用許可基準から見た審査状況について、ご報告をお願いします。

委員 今回の土地は12月23日に、一日立会委員として現地調査をさせていただきました。
田んぼのところの土地は、50年ほど前に整地されて駐車場として使用をずっとされてきましたので、今回申請されましたように、露天駐車場の場合は周辺の農地への水の被害とかそういうのではないと思われまます。
また、No. 2の土地も同じです。
ただ、こちらは貸露天駐車場ということです。
これも同じく50年前に整地されたままの状態ですので、今まで何ともなく使われていきますので、何も問題はないと思いますので皆さん、ご審議のほど、よろしく願いいたします。

議長 ありがとうございます。
続きまして、地元委員のご意見をお伺いします。
No. 1 及びNo. 2の桐生二丁目につきまして、地元委員より、一括してご意見をお願いします。

委員 この案件、事務局が説明されたとおりで、競売入札に参加される2名の方の申請によって出されたもので、12月23日に入札参加者が同時に顔を合わすということはできないので、2回に分けて立会いをしていただきました。一日立会委員、私、それから地元推進委員と事務局、それと1番目の代理人は行政書士の〇〇さん、2つ目は行政書士の〇〇さんという形と併せて現地を立会させていただきます。

現地で申請者の前でなかなか聞けなかったので、手続上確認の意味で見解を聞きたいのですが、これはまず既に農地でない状態になっていると。ですから、今回で言うと、自己所有ですから4条のいわゆる顛末案件になろうかと思えます。ですが、この所有者の方は競売にかけられたということで、入札条件、要は担保を裁判所は取ってこいということで、この申請が出てきたと思うのですが、この申請についてはあくまでも農地の状態で露天駐車場なり、通路なりをすると申請書から見ると見えるわけですね。

ですが、現状は写真にもありますように、既に埋められて実質上、通路及び駐車場になっているということなのですが、事の顛末については分からないと言えばそれまでなのですが、この申請を出すならば、本来、原状復旧をして、その状態から申請するというのが法に照らし合わせるとなってくると思うのですが、1つ、その見解をお教えいただいたらと思います。

現状は既にこういう状態で使われていますので、排水等は以前のまま、これからも以前と同じ状態で排水されるということで、周辺の農地には特に問題ないということですので、ご審議のほどよろしくお願いいたします。以上です。

議 長 ありがとうございます。
 何かご意見・ご質問はございますか。

事 務 局 先ほど地元委員からご質問・ご意見があった件でございます。今回、顛末案件での買受適格証明ということで、この申請自体が割と珍しい申請にはなってしまいます。所有権を移転する場合は3条、農地を農地のまま所有権移転をするのであれば、もちろん3条の許可申請になりますし、転用する形で所有権を変えるのであれば、5条の許可申請となります。

今回、顛末なので4条なので許可申請というのが、この競売のこのような処理の中で、そういったことがなかなかできないということもありますので、買受適格証明申請と併せた5条許可申請という形でやむを得ない部分があるとの認識はしております。

裁判所で先に農地を地目変更なりしてから競売にかけておれば、こういったところもないとか、そういった部分はもちろん手順としてはあるんだと思いますが、今回この地目が農地のまま競売になされたというところで、農業委員会での書面申請が必要になる、5条での書類が必要になるということでございますので、ご理解のほどお願いしたいと思えます。

議 長 ありがとうございます。委員、よろしいですか。

委 員 結構です。

議 長 そのほかにもございませんか。

(なしの声)

議 長 ご意見等も出尽くしたようですので、お諮りします。
No. 1 につきまして、証明書を交付するとともに、当該者が売却決定通知書を持参し、今回の申請内容と同様の農地法第5条許可申請書が提出された場合は、会長専決による許可とすることに賛成の方は挙手をお願いします。

<採 決>

議 長 挙手全員により、議案第85号 民事執行法による競売の買受適格証明書及び農地法第5条許可についてNo. 1 は、交付並びに会長専決による許可とすることに決定いたします。
続きまして、No. 2 につきまして、賛成の方は挙手をお願いします。

<採 決>

議 長 挙手全員により、議案第85号No. 2 は、交付並びに会長専決による許可とすることに決定いたします。
続きまして、議案第86号 農用地利用集積計画についてを議題といたします。
なお、農業委員会等に関する法律第31条第1項の規定により、〇〇委員が利害関係人に該当しますので、ご退席をお願いします。

(〇〇委員退席)

議 長 それでは、農林水産課の説明を求めます。

<農林水産課、資料に基づき説明>

議 長 ありがとうございます。
説明が終わりましたので、何かご意見・ご質問はございますか。よろしいですか。

(なしの声)

議 長 ご意見もないようですので、お諮りします。
原案のとおり決定することに賛成の方は挙手をお願いします。

<採 決>

議 長 挙手全員により、議案第86号 農用地利用集積計画については、原案のとおり決定いたします。
それでは、これより再度、退席いただいた委員にお入りいただきます。

(〇〇委員着席)

議 長 続きまして、議案第87号 農用地利用集積等促進計画の案に関する意見についてを議題といたします。
なお、農業委員会等に関する法律第31条第1項の規定により、〇〇委員が利害関係人に該当しますので、ご退席をお願いします。

(〇〇委員退席)

議 長 それでは、農林水産課の説明を求めます。

<農林水産課、資料に基づき説明>

議 長 ありがとうございます。
続きまして、事務局から回答案の説明をお願いします。

<事務局、資料に基づき回答案を説明>

議 長 ありがとうございます。
説明が終わりましたので、何かご意見・ご質問はございますか。

(なしの声)

議 長 それでは、ご意見もないようですので、お諮りします。
議案第87号 農用地利用集積等促進計画の案に関する意見については、回答案のとおりとすることに同意される方は挙手をお願いします。

<採 決>

議 長 挙手全員により、議案第87号 農用地利用集積等促進計画の案に関する意見については、回答案のとおり大津市長宛て回答することに決定いたします。
それでは、これより再度、退席いただいた委員にお入りいただきます。

(〇〇委員着席)

議 長 続きまして、議案第88号 権限委譲に伴う農地法関係事務の委任につい

てを議題といたします。

それでは、農林水産課の説明を求めます。

<農林水産課、資料に基づき説明>

議 長 ありがとうございます。
続きまして、事務局から回答案の説明をお願いします。

<事務局、資料に基づき回答案を説明>

議 長 ありがとうございます。
説明が終わりましたので、何かご意見・ご質問はございますか。よろしいですか。

(なしの声)

議 長 それでは、ご意見等もないようですので、お諮りします。
議案第88号 権限委譲に伴う農地法関係事務の委任については、回答案のとおりとすることに同意される方は挙手をお願いします。

<採 決>

議 長 挙手全員により、議案第88号 権限委譲に伴う農地法関係事務の委任については、回答案のとおり大津市長宛て回答することに決定いたします。

事 務 局 既に採決をいただきました議案第83号 農地法第5条第1項の許可申請に関しまして、No. 1ですが、こちらの案件につきましては面積が3,000㎡以上になることから、県の諮問会議に諮ってから許可をする案件ということで私、ご説明させていただきました。

採決をもう一度お願いしたいのですが、今回ここで許可をするというわけではなく、許可相当と認め、県の諮問会議に諮ることに決定しますということで、再度、採決の確認をお願いいたします。

議 長 採決の採り方を変えまして、許可相当と認め県の諮問会議に諮ることに決定することに賛成の方は挙手をお願いします。

<採 決>

議 長 挙手全員により、議案第83号 農地法第5条第1項の許可申請No. 1については、許可相当と認め、県の諮問会議に諮ることに決定いたします。
続きまして、報告案件です。報告第100号 農地法第3条第1項の許可申

請（競売落札後）について、報告第101号 農地法第4条第1項第7号の規定による農地転用届出について、報告第102号 農地法第5条第1項第6号の規定による農地転用届出について、報告第103号 農地法施行規則第29条第1項第1号の規定による農地転用届出について、報告第104号 農地法第3条の3の規定による権利取得の届出について、報告第105号 農地の転用事実等に関する照会について、以上、一括して事務局の報告を求めます。

<事務局、資料に基づき報告>

<事務局、集計報告>

議長 ありがとうございます。
ただいまの報告について、ご意見・ご質問はございますか。よろしいですか。

(なしの声)

議長 ご意見等もないようですので、全体を通して何かございますか。なければ、副会長に司会をお渡しします。

副会長 皆さん、長時間お疲れさまでございました。
以上をもちまして、第20回定例総会の全ての議案、報告事項を終了いたします。
ご苦労さまでした。

議事録署名委員

議長（濱田 博之 委員）

印

委員（小谷 英利 委員）

印

委員（森元 直紀 委員）

印